

地層処分技術WGとりまとめ(案)に係るパブリックコメントの概要

1. 実施期間等

- (1) 募集期間：平成28年8月9日(火)～平成28年9月8日(木)
- (2) 実施方法：電子政府の総合窓口(e-Gov)及び経済産業省ホームページにおける掲載
- (3) 意見提出方法：e-Gov意見提出フォーム、電子メール、FAX、郵送

2. 提出意見件数：68件

3. 寄せられた主な意見

<総論>

- 「科学的有望地」という呼称や、「適性の低い地域、適性のある地域」といった分類の呼び方は誤解を招きやすい。
- マップの提示後にどのように進めるのか道筋が示されておらず、候補地の自治体に結局押しつけようとしているのではないか。
- 処分地選定調査に入る地域の適性については、想定される様々なリスクを明示した上で、安全性を示す必要がある。
- 輸送時の安全性の観点以外で好ましい範囲が示せておらず、無理に適性の高い地域を設定しようとしているのではないか。

<各論>

- 10万年の保管期間にマイナス要件(地震、浸水、火山活動による地層の状態)が変容しないという保証はない。
- 火山について回避すべき範囲を火山の中心から50kmとすべき。
- 隆起・浸食に関する回避対象について、どのようなデータに基づいて最大-150mとしているのかわからない。
- 断層について、100分の1程度の範囲を回避するだけでなく、過去の地震の情報をもとに判断すべき。
- 炭鉱跡や廃鉱山の坑道を利用してはどうか。
- 「地下水流動が緩慢であること」を具体的に数値で示すべき。
- 津波については地下施設についても検討されるべき。
- 坑道が将来的に水みちとなるシナリオも作成すべき。
- 労働環境を考慮すれば地温勾配約10℃/100mと基準を作れる。
- 長距離輸送を前提とせず、現地調査を踏まえた個別地点ごとの検討により、輸送方法を設定すべき。
- 輸送の安全性に関する要件・基準は社会科学的要件ではないのか。
- 塩水の影響を考慮すると、沿岸海底下での処分は好ましくないのではないか。

<原発、地層処分等、全般について>

- 地層処分はやめるべき。
- 目の見えるところで地上管理すべき。
- 宇宙エレベーターや、核種変換などの技術開発をすべき。
- 核のゴミをこれ以上増やすことになる原発の再稼働を即刻やめるべき。
- ガラス固化体の安全確認はどのように行われているのか。
- 核燃料サイクル事業の中止も含めた根本的な見直しが先。